

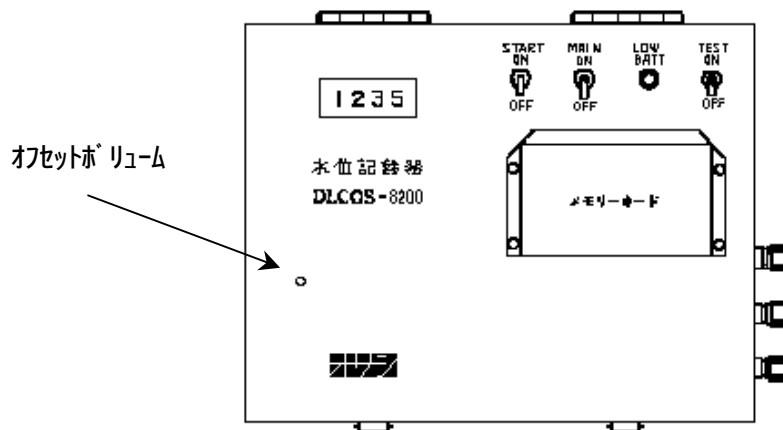
DLCOS-8200 型水位計設置手順

株式会社オサシ・テクノス

(必要な工具)

触針式水位計、精密ドライバー（マイナス）、ドライバー（プラス）、ビニールテープ

1. まず、センサを適当な位置で固定し、10 分程度地下水の水温に馴染ませます。この間に収納箱の設置を行います。
水圧式水位センサは急激な温度変化を与えると、数センチ単位で水位誤差が発生することがあります。誤差無くデータを測定するためにも必ず実施してください。
2. 収納箱を設置します。
3. 記録器にバッテリーとセンサを接続します。端子の色同士が同じになるようにして下さい。(センサの黒の端子はアース線です。記録器側バッテリー端子の黒に接続して下さい。) **端子がゆるんでいると誤動作の原因になります。** 端子はしっかり締めて下さい。
4. 記録器のスイッチを【MAIN】・【START】・【TEST】の順番で ON にします。センサを水中から引き上げ、大気中で表示が「0」になっているか確認します。「0」でない場合は、記録器のオフセットボリュームを精密ドライバーで調整し「0」に合わせて下さい。調整が終わったら全スイッチを OFF にして下さい。



5. 触針式水位計で孔内の現在の水位を測定します。既定の設置深度から GL の水位の値を引き、実水位を求めます。(単位：cm)
$$\text{実水位} = \text{センサ深度 (設置深度)} - \text{地下水位 (GL-)}$$
6. 記録器のスイッチを【MAIN】・【START】・【TEST】の順番で ON にします。
記録器の水位表示を見ながらセンサを下ろし、5 項で求めた実水位になったところで固定します。(エア抜きのため、水中で上下に数回振って下さい。)なお、表示されている水位は cm です。センサケーブルの体積で孔内の水位が上昇する場合がありますので、センサを入れた状態のまま、触針式水位計でもう一度孔内の水位を測ります。水位が違っていた場合は、再度実水位を計算し、

ケーブルの固定位置を微調整して下さい。

7. センサが固定できたら、記録器の各スイッチを OFF にし、余ったケーブルをまとめて下さい。その際、ケーブルが食い込むほど強く縛り上げたり極端に曲げたり傷つけたりしないようご注意ください。

水位センサケーブルには大気開放用の中空パイプが内蔵されています。パイプが潰れてしまいますと水位誤差の発生原因となります。

8. メモリーカードを記録器に差し込みます。

【MAIN】・【START】の順番でスイッチを ON にし、記録を開始します。サンプリングの時間が 20 分の場合は、処理の都合上、毎 0・20・40 分になった時にスイッチを ON にして下さい。DLCOS-8200 型水位計は時計が内蔵されておりません。必ず、記録を開始した日時をメモしておいて下さい。

9. 【MAIN】・【START】スイッチが ON、【TEST】スイッチが OFF になっていることを確認し、記録器の蓋を閉めます。【TEST】スイッチが ON 状態のまま放置すると数時間でバッテリーが消耗してしまいます。必ず OFF になっていることを確認して下さい。センサ・バッテリー各端子のゆるみがないことを確認した後、収納箱を閉じて機器の設置は完了です。

(機器の取扱注意点)

- ・ メモリーカードが挿入された状態で【MAIN】または【START】スイッチが OFF / ON されると、中のデータが初期化されます。記録器のスイッチを OFF にしたら、まず、メモリーカードを引き抜いて、新しいカードと区別して保管して下さい。バッテリーの端子が緩んで OFF / ON されても同様にデータは初期化されます。
- ・ 交換用のカードとデータの入ったカードを間違えないで下さい。いったん初期化されてしまったデータは修復できません。

(バッテリーを外す際の注意点)

- ・ バッテリーとバッテリーコードを繋いだ状態で記録器側のバッテリーコード端子を外すとショートする恐れがあり、大変危険です。バッテリーを外す際は、必ず先にバッテリー側のバッテリーコード端子を外して下さい。

(センサの取り扱いの注意点)

- ・ 強い衝撃を与えると半導体が破損する恐れがあります。落としたり、ぶついたりしないように気をつけて下さい。
- ・ センサケーブルに傷があると水が浸入し故障の原因となります。ケーブルに傷を付けないように気をつけて下さい。
- ・ ケーブルをまとめる際に、被覆が食い込むほど強く縛り上げたり極端に曲げたり傷つけたりしないようご注意ください。ケーブル内の大気解放用チューブがつぶれると、大気圧補正がうまくできなくなり誤差の原因となります。